

鳥取 YEG 通信

TOTTORI
YOUNG
ENTREPRENEURS
GROUP

発行：平成29年10月15日
鳥取商工会議所青年部
総務広報委員会

鳥取商工会議所青年部通信

10

October 2017

■平成29年度 会長あいさつ



鳥取商工会議所青年部
会長 **福田 通拓**
株式会社 インテリア
フクタ

日増しに秋も深まり、朝晩肌寒さを感じる季節となりました。皆さまお変わりなくお過ごしのことと存じます。この季節になるとマツタケ・柿・サンマなど秋の代表的な食材が食卓をにぎわせませす。胃袋の休む日はなさそうです。

さて、青年部の事業も盛りだくさんになってまいりました。まずは、9月の例会を臨時総会も兼ねて開きました。総会では現副会長・杉内勝成君が満場一致で次年度会長として承認されました。次年度は青年部が創立40周年を迎える節目の年となります。責任ある役職となりますが、これまでの経験を生かしてがんばっていただきたいと思えます。例会では鳥取市から講師を招き、防災について学びました。近年、地震・雪害・水害などの甚大な被害をもたらす天災が各地で発生しています。このたびの講演では、過去の災害を事例に各自が設問にYES・NOのカードで答えるクイズ形式で行いました。設問の内容が究極の選択で、「この選択は非人間的ではないか」と悩む部分もありましたが、いざという時に備えての判断力を身に付けるには良い機会だったと思います。災害への予防策を覚えていただき、またこの知識を友人、家族、会社、地域へ

生かしていきたいと思えます。

また、スキルアップ委員会主催でオーブン委員会を開きました。今回はモルタルマジックの池原正樹社長をお招きし、お話を聞きました。皆さまも「鳥取砂丘モアイ像」「砂の妖精」など郷土のお土産品として人気があることはご存じのことと思います。最初は会社の窮地を脱しようと立ち上げた新事業が、今は全国のお土産グッズの代表品となり、さらに発展し、月の砂を固め建造物をつ造る宇宙航空研究開発機構JAXAと共同開発を進めておられます。世の中は変化し、変化の中で求められるものが変わっています。その中で諦めず新しく求められるものを追求し前進すれば、光が見えてくるものだと思えます。ありがとうございました。良い刺激をいただいたと思っています。

そして9月23日には、『第18回鳥取三十二万石お城まつり』に参加し、創作奴踊りを披露しました。

青年部では、第1回のお城まつり以前から鳥取城復元に取り組んでおり、奴踊りは鳥取YEGが第2回から地域の皆さんに『鳥取城復元』を発信するために創作したものです。透き通るような神秘的な音楽に合わせてゆっくりと舞う姿は、時代の流れを巻き戻したように感じられます。今回はこれからもこの踊りが続いていくようにと願を込めて新入会員を中心に踊り子を集めました。この踊りを通じて会員の絆が深まることを願うばかりです。

これからも鳥取商工会議所青年部は地域経済発展のため、豊かな郷土を築くためまい進してまいります。応援をよろしくお願いいたします。

9月例会臨時総会

日時 平成29年9月13日(水)
19:00～21:00
場所 鳥取商工会議所大会議室

9月例会は、平成30年度の新体制に向けて臨時総会を開催しました。会員93名出席のもと、次年度鳥取YEG会長予定者に杉内勝成君の選出が発表され、満場一致で承認されました。承認後、「大切な40周年を迎えるその年に会長と認められることは非常にありがたく名誉なことだと感じています。仲間と共に気持ち盛り立てて頑張っていきたいと思えます」と、力強い挨拶がありました。

臨時総会後は、鳥取市危機管理課の川本都夫防災コーディネーターと石原裕也係長をお迎えし、総務広報委員会の企画による「防災例会「災害」その時あなたはどうしますか?」を行いました。「クイズ形式」のこの講習は、災害を経験された方々の実体験が設問となっており、回答の正解・不正解ではなく、選択理由についてお互いに意見を話し合うことが目的となっています。各10名程度のグループに分かれ、設問に対し「YES・NO」を選択し、なぜその回答を選んだのかを進行役が取りまとめられました。

究極の選択にも似た難しい設問に対し、活発に発言が行われ会場は熱い意見交換の場となりました。

最後に川本防災コーディネーターより「災害について考える場を持つことが、経験の一つとして蓄えることができる。また、会社や家族の中で一緒に話し合っていくことも防災準備の一環として大切である」と総括をいただきました。それぞれの立場の中で、判断することの大切さを経験できたのではないかと感じた例会となりました。

9月例会が終了し、本年度も折り返し地点を迎えました。新年度への準備も始まります。記念すべき40周年に向けて、この平成29年後半をしっかりと歩んでいきたいと思えます。

総務広報委員会 委員長 恩田 奈津江



あいさつをする福田会長



防災例会の様子

『星取県取材を終えて』

鳥取YEGが昨年6月から『星空県構想』に着手し、青年部内で議論の末に『星取県』と命名。12月には『星取県パンフレット』を作成し、1000を超えるメディアや自治体に送り届けたところから『星取県』が世に産声を上げました。

最近では県内各地で星空観賞会や各種イベントが開催され、メディアやSNS等に掲載されるようになり、ますます浸透してきております。そんな折に、NCNケーブルテレビ討論番組『フォーカス鳥取』で有識者の皆さんと意見交換の機会をいただきました。日本一の『星空』について、観光振興、地域経済活性化、保全等、さまざまな意見を交わすことができました。

私自身、今まで日本一の星空と知るまで『星空』は、水や空気があることと同じくらい当たり前のことだと思っておりましたが、あらためて地域の皆さんに、日本一の『星空』の素晴らしさを体感していただき、一時のブームで終わらせることなく地域の自慢として後世まで美しい夜空が守られること、そして『星空』がビジネスに繋がりを継続されることにより地域に根付き、国内外から愛される『星取県』になることを願っています。

直前会長
牧浦 健泰



フォーカス鳥取「星取県」の様子 ※日本海新聞提供

スキルアップ委員会 第2回オープン委員会

「知って得する!! 知らなきゃソンソン 楽しく遊んで学べる知的財産講座」

8月30日(水)に、スキルアップ委員会の第2回オープン委員会として、「知って得する!! 知らなきゃソンソン 楽しく遊んで学べる知的財産講座」を開催しました。

知的財産に関する講座といえば、途中で眠くなってしまつた人多いのですが、楽しく遊んで、最後に少しかけ学んでもらいたいと考え、「CUBIS」という知財学習用ボードゲームを行いました。このゲームは、ビジネスにおける知的財産の有用性を楽しみながら体験できるスコロクとなっています。

今回、ペアを組んで4組1テーブルで、4つのテーブルで行いました。ルール説明など行わず、いきなりの実践開始でしたが、皆さんすぐに慣れたようで、各テーブルがあつという間に騒がしくなってきました。

前半、後半の2回ゲームを行いました。前半は、前半戦は実はルールを覚えるための練習で、景品のなかった後半戦が本番でした。豪華景品のおかげでしょうか、かなり白熱していたようでした。ゲームではさまざまなイベントがあり、イベントごとに大きな声も聞かえてきました。そして、最後はまさに知的財産権による訴訟イベントにより大逆転があり、劇的な結末を迎えることとなりました。

開業して2年が過ぎ、その間自己紹介しても知的財産?、弁理士?、特許事務所?という反応がほとんどでしたが、今回のオープン委員会で少しは知っていたのだのではないのでしょうか。ご参加いただき、ありがとうございました。

スキルアップ委員会
中西 康裕



「CUBIS」を使った学習ゲーム



知的財産講座

小鳥の家族in鳥取砂丘

テント設営撤去に参加

鳥取YEGは2015年より鳥取出身の写真家「水本俊也」氏主催の「小鳥の家族in鳥取砂丘」のテントの設営撤去に協力しています。今年は7月、8月に3回開催され、鳥取YEGの会員(有志)が設営撤去に計6回携わりました。

設営作業は11時頃からはじまり、10数張りのテントを建てていきます。テントは2、4名で組み立てるので、経験者にコツを教わりながら、効率よくスピーディーに行う必要があります。およそ1時間程度で完成ですが、終わった頃には汗びっしょりです。

作業後には、用意していただいたドリンクとおにぎり等の軽食をいただきながら、しばし休憩と談笑です。そのときYEG以外に参加されていたボランティアアスタツとお話しさせていただきました。関西や関東からはるばる参加される理由の一つに、自然を満喫できる企画自体がすばらしく、自分も自然と笑顔になれるからという言葉が印象的でした。

最後に活動を記念して写真家「水本氏のみずからカメラで記念撮影。暑い中での作業、会員の皆さん、本当にお疲れさまでした。

企画運営委員会
委員長 中井 史生



参加メンバーで集合写真

新入会員



叶 楓君
(イエ フェン)

事業所名 ハウスクリーン鳥取店
所属委員会 スキルアップ委員会